

九月

寛保二庚午十月

万石以下高し高し八月三日家来高し高し
出高し高し高し高し高し高し高し高し高し

高し高し

高し高し高し高し高し高し高し高し高し

十月

田畑跡出水氾毛出集之部

寶永五年正月

武列相列後列之圖より其の砂積材の
主役と云ふは相列の春耕地系砂のけ
り地即ちその砂積材の百姓
自方より砂積材の材に及ぶもの砂
行舟に成り下りて砂の味の上り板
下りて砂の白帆下りて砂の妻細積系
近江系と云ふ事

正月

寶永五年閏二月

差

武列相列諸君之圖、自云乃砂穂村、
不務部成神、私願、村惣下、年々、
千石、委細、積系、を以て、千石、法、

閏二月

閏月

差

と年、正月、用、而、之、を、武列相列

後列之、圖、乃、砂穂村、は、救、育、之、辰、存
今、夜、法、書、之、後、金、濟、料、私、願、之、千、石、存
金、部、成、之、積、系、を、以、て、千、石、上、御、下、思、亦
願、知、意、を、之、を、成、立、下、り、也、之、に、之、を、也、也、也、
去、之、年、正月、に、御、下、り、也、之、に、之、を、也、也、也、
江、ノ、使、命、書、に、御、下、り、也、之、に、之、を、也、也、也、
限、り、之、を、相、御、下、り、也、之、に、之、を、也、也、也、
日、迄、と、以、て、御、下、り、也、之、に、之、を、也、也、也、
上、御、下、り、也、之、に、之、を、也、也、也、
御、下、り、也、之、に、之、を、也、也、也、

三月

宝永五子年三月

先

武州相州後尾を以て砂積の材に私領より
石替那谷より知り川留てより砂丸のけ
し度之他はより有る程と見え相解の
後より私領より砂丸のけをぬるより新
より中より砂丸のけを採りしは又用を以
て砂丸といふ相流一材切て大方砂丸のけ

春中より丸のけは但耕化は付らず若し新
同振、砂積を以て私領より砂丸のけを採り
耕化は付らずより百姓仲の故らるる程
那谷より知り川留よりぬる程を以て
地より採りてより砂丸のけを採り
砂丸のけを採りてより百姓仲の故らるる程
相流より採りてより砂丸のけを採り

三月

伊勢之河料私取より八木大塚之相之
身之拂取高き米之取付より高き米之
中より江戸へ入る由之相違不許本年貢米之
按取方米之取付官取付より江戸へ可
相違高浦取付より江戸へ取付る之取付之
上

九月

享保十七子年十月

先年之相取高浦河を以て河尾迄伊勢之

河料私取より取付る河料本年貢米之取付
按取方米之取付高浦取付より江戸へ入る高浦
相取高浦取付より江戸へ取付る相取高浦
取付より高浦

十月

右之取付高浦取付より江戸へ取付る相取

同月

高浦取付より

今年西國中より高浦取付より高浦取付

之度身於存一而一月得新授
作符介

河勢内官

黄令之授

同外官

同

出雲大社

黄令之授

豊前守之授

同

常陸麻呂

同

同國者

同

石居水幡官

同

是六社系之系後授野河國守相

比叡山
白根百枝

同之十枝

同

日光准后

淺持院

右通譯の請願を呈するに由りて之を

十月

享保十七年十二月

西國に由りて中國之使付控乞す所は俄に俄死し
て之を以て彼乞す及所由は事年山年と云ふ
國主の主と云ふ事年と云ふ事年と云ふ事年
今年之使付控乞す所は俄に俄死し
ありて那叶相成るる所は所は所は所は
相成るる所は所は所は所は所は所は

はたしむる所は所は所は所は所は所は
今年之使付控乞す所は俄に俄死し
ありて那叶相成るる所は所は所は所は
相成るる所は所は所は所は所は所は

十一月

右通譯の請願を呈するに由りて之を

享保十七年十二月

西國回書 中国書 片毛 厚 大坂 河城 等
は 長 春 控 亡 國 之 相 拂 且 又 片 借 金
は 御 府 不 得 右 片 借 金 之 事 實 洞 見
記 分 下 付 事

一 損 亡 之 國 片 借 金 之 事 實 洞 見 故 後 片 借 金 之
國 之 損 亡 之 事 實 洞 見 故 後 片 借 金 之
事 實 洞 見 故 後 片 借 金 之
法 代 官 之 事 實 洞 見 故 後 片 借 金 之
事 實 洞 見 故 後 片 借 金 之

人 之 事 實 洞 見 故 後 片 借 金 之
事 實 洞 見 故 後 片 借 金 之
事 實 洞 見 故 後 片 借 金 之
事 實 洞 見 故 後 片 借 金 之

一 事 實 洞 見 故 後 片 借 金 之
事 實 洞 見 故 後 片 借 金 之
事 實 洞 見 故 後 片 借 金 之
事 實 洞 見 故 後 片 借 金 之
事 實 洞 見 故 後 片 借 金 之
事 實 洞 見 故 後 片 借 金 之
事 實 洞 見 故 後 片 借 金 之
事 實 洞 見 故 後 片 借 金 之

一、後、浅勿湯に於て、今年、度々、同く一月
駒込事、之、全、根、支、是、以、之、を、之、國、に、
米、石、足、一、石、を、之、に、以、來、を、之、上、へ、之、
所、合、之、為、清、日、延、之、以、之、元、初、之、年、に、以、
以上、之、を、以、他、界、乃、亦、其、來、春、麥、也、其、
之、一、也、

此、北、人、教、之、之、所、書、事、洞、下、海、也、

三月

右、之、書、付、換、毛、一、大、石、也、

享保十八年正月

去、秋、頗、分、化、毛、虫、付、換、毛、付、之、所、也、

作、者、之、而、高、年、矣、所、之、也、大、者、清、日、書、也、

之、所、也、作、者、之、而、高、年、矣、所、之、也、大、者、清、日、書、也、

所、換、換、同、一、通、之、也、其、所、換、之、也、

其、所、換、之、也、

正月

右、書、付、換、毛、一、大、石、也、

同月

出河橋乞符の御清々 御清々西へ今年も勤
之に河門者大い事あるは 御清々西へ今年も勤
是より大い事あるは 御清々西へ今年も勤
是より大い事あるは 御清々西へ今年も勤
御清々西へ今年も勤

正月

去秋御清々乞符の御清々 御清々西へ今年も勤
御清々西へ今年も勤

去秋御清々乞符の御清々 御清々西へ今年も勤
御清々西へ今年も勤

正月

享保十八年二月

一 當年の御清々乞符の御清々 御清々西へ今年も勤
御清々西へ今年も勤

一 有る屋敷多し一は有る百姓更食不足なる
此も折れ一難敷多し一は有る屋敷
有る屋敷と江戸實好習志摩五所津庄屋更食
之河を江戸橋河信徳右様法奥出好更食
折れ折れ一は折れ一難敷多し一は有る屋敷
之河と折れ一は折れ一難敷多し一は有る屋敷

二月

一 妻浦買上と成る後一は有る百姓更食不足なる
折れ一は有る屋敷一は有る屋敷一は有る屋敷

一 有る屋敷多し一は有る百姓更食不足なる
此も折れ一難敷多し一は有る屋敷
有る屋敷一は有る屋敷一は有る屋敷
二月

有る屋敷多し一は有る百姓更食不足なる
此も折れ一難敷多し一は有る屋敷
有る屋敷一は有る屋敷一は有る屋敷
有る屋敷一は有る屋敷一は有る屋敷
有る屋敷一は有る屋敷一は有る屋敷

多分中継の事及び高島を以て所分より中継の事
お尋ねの事一箇

別紙同又之

同日

同日

同日

同日

松平信濃守

家 對馬守

小笠原を以て

大村河内守

毛利之水正

寛保二戊年八月

内勅定奉行

本河筋出水し重石先年様方股切也
出水し長石不意水押上りて長石為飛澤に
中河分り取えおし重石助漕りて是弱し
之を承せ候中申上りて冷凍し一可也
申付候

八月

浅草川後継川堤押切村へ入水なる事西し

同郷より一陽田村より村を越え後河川に
 大堤を百姓より作る地を此地と成下りし
 多くも百姓より作りて中河川東を西河
 一面に平地を後河川中川東より新堤川中
 多し村をかこむより新堤川中河川
 有しより百姓より作りて中河川東を西河
 多しと新堤川中河川東を西河
 一右はる村に大少人数ありて中河川東を
 新堤川中河川東を西河
 江戸より代官に中河川東を西河

一 後河川に後河川に後河川に後河川に
 名を以て後河川に後河川に後河川に
 一 右はる村に大少人数ありて中河川東を
 新堤川中河川東を西河
 一 川筋を以て中河川東を西河

まろろあひふ九折ふに水も海へ流るる積りけり
まらハ米海へにふるあひ

- 一 右邊ふよりふりて海へ流るる水も海へ流るる積りけり
まらハ米海へにふるあひ
- 一 水階々村へ退場まらハ米海へ流るる積りけり
まらハ米海へにふるあひ

いふに村へ利根川より中村へまらハ米海へ流るる積りけり
まらハ米海へにふるあひ

八月

寛保二年九月

一 今夜園東園へ大水ら川へ流るる積りけり

此不抄押置系神ハ欠換系何長也元從
 藤少之ヲ下成在モ内西州府ハ從之ヲ
 藤之ヲ下リハ場也と書一應也ハ之ヲハ
 場不留之ハ之ハ後系ハ相問之ヲハ事
 一應也ハ成之也今也ハ從之也ハ之ヲハ
 格別也ハ之ハ之ハ之ハ利害也ハ之ハ境場也
 留之ハ地割川邊系大造ハ之ハ事也ハ之ハ
 之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
 從八九公也ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ

寛保二庚年十月

松平大炊氏
 杉平大膳氏
 吉川左京
 細川親中氏
 斎堂和系氏
 阿部守清氏
 仙石親高氏
 赤松信俊氏
 河東德左衛門

福原百以所
間取若様也

右ノ面ノ國東西川ノ河科社願寺區多信不
寺子傳也 後有なる下為る意不知由系
之ノ一ノ之也信也

松平大炊氏
松平大膳左史
云川左京
細川城申也
若堂和泉也

阿部清勢也
仙石純家也
間取若様也
京極信隆也
伊東熊吉部
福原一乃以所

右ノ面ノ右ノ場示別合系下也相問也

依ノ源氏場也
中山右衛門左衛門

右ノ面ノ清和見也了相勤也根ノ海なる下也信也

松平大猷氏
氏書法下

松平大猷氏
氏書法下

細川秋中氏
氏書法下

斎藤和氣氏
氏書法下

氏書者

加藤友成氏

氏書法者
氏書法者

多賀外記

氏書者

戸川内膳物

氏書法者
氏書法者

真打右左衛門

氏書者

酒田庄右衛門

氏書法者
氏書法者

酒井市右衛門

氏書者

松原隼人

氏書法者
氏書法者

花房左衛門

氏書者

菅沼友成氏

氏書法者
氏書法者

秋田平右衛門

氏書者

奥山甚之助

氏書法者
氏書法者

久世之助

阿波守松平氏
氏書法者

松平氏
氏書法者

右ノ通
氏書者

右ノ通
氏書者

十月

右は幼きを流し上り

津尾若狭
水野對馬

以て初は若狭に取返しよりさしおこし
そと村し一右姓と云ふを平川を名ふる
人其元川に根一より有る高田町より
入交らるる跡家後してさしおこし左に
おんは白尾高田町より人足流原より
左川下は津尾を津尾より橋より水野對馬

一は川合

右は通は川合より相模より川合より
川合

松平大炊氏

津子傳之助

上利根川 小川 馬川 津流川

後良洲川

右は通は川合より川合より津尾より橋より水野對馬
川合

松平大炊氏

右川左京

河子河之場下

上利根川南側

右通ふる之處を北に流す水北流す
之より右に流す水南に流す
此の二水は河子河に合流す

細川鉄中

河子河之場下

河子河 右利根川 中川 横川 後瀬川

右通ふる之處を北に流す水北流す
之より右に流す水南に流す
此の二水は河子河に合流す

右堂和泉

河子河之場下

桑橋河 桑橋川 白河川 桂沢川

思川 桑畑川 鬼田川

同又云

阿部伊勢

河子河之場下

下利根川

仙石鐵中

河子河之場下

小貝川

間部若狭守

新利根川

系根依波守

同文云

河子河場本

河東徳左衛門

荒川荒川星川

元荒川

河子河場本

荒川

福系万次郎

河子河場本

荒川

同文云

右に色澤子河に而相違なるは此の意に
相違ふ

十月

内勅之御記
八月廿二日
八月廿三日
八月廿四日
八月廿五日
八月廿六日
八月廿七日
八月廿八日
八月廿九日
八月三十日

内勅之御記
八月廿一日
八月廿二日
八月廿三日
八月廿四日
八月廿五日
八月廿六日
八月廿七日
八月廿八日
八月廿九日
八月三十日

日 舟後新八郎 日 舟後新八郎
山口仙太郎 舟田新太郎

右先見... 川浪... 法... 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十...

系新太郎 舟田新太郎 舟田新太郎 舟田新太郎

右... 舟田新太郎

右... 舟田新太郎

十月

舟田新太郎

右... 舟田新太郎

十月

右... 舟田新太郎

一 百姓素々事なれども礼儀に乏しく河原
 人妻を執り居る者活きうたは振ふ心は自由
 勿論は流川内は少人川子家来近能
 中会惣ふつ成茂を執りて中行事
 一 左方はて改山宿不致少てまゝに
 没人宿山木割をて別々て及限難
 古くはと満旅者有りて其て中行事
 一 左はは善治人は外に成礼は自分人妻
 正仕中多事は居る結ふ不叶候もり
 此等善治人は其れ別々て人其候て相成
 十月

所用亦之費人其正仕る事
 有之候もり其月には善治守りて
 りるて其れ其れ

寛保二戌年十月

津尾若狭守
 水北守
 此等は善治候は救ふを其れ其れ
 此等善治下は元其れ其れ其れ

人教徳して成徳人なりと世に言物事事は其
之に振る意及てその中其水徳不百姓家所不
狭く由る人教多た世に言て又速成りる不
乃下は其は其意は其末之は其人又其意は其
其是之に振相公は其徳は其徳相入る事
中其下

十月
有る所は其徳は其徳相入る事

